

南房総市きょう誕生

安房 7 町村が合併

富浦町、富山町、三芳町、安房郡市の中核都市の村、白旗町、千倉町、九倉町、和町の安房七町村が合併、きょう二十日、「自立」を主張する白旗町が合併を断念した。人口約四万七千人（二〇〇〇年国勢調査）の新しい「南房総市」が誕生する。「平成の大合併」では県内でも七番目、開市式は同日午前十時から市役所庁舎となる旧富浦町を会場開かれ、郡令交付後、幹部職員を前に市長職務執行者の遠藤一郎、前富浦町長らにより、テープカットで新市誕生を祝う。また旧役場庁舎を各支所とし、開所式が行われる。当初、安房郡市十一市町村で構想された合併だが、まず現在の新富浦川市となっていた旧鴨川市と天津小湊町が離脱。次の「南房総市」が誕生した。「平成の大合併」では県内最多の自治体による合併となる。

新市誕生に伴い、市長、市議を千倉町が七、その地は町村を各三とし、計二十五人を選ぶ。今後のまちづくりでは、水下敏二氏（元）と島本浩一氏（元）が立候補を表明している。市議選は、今回の県内で初めて選挙区を設定する。旧町村の議員定数計百二に對し、

南房総の富浦町、富山町、三芳町、白旗町、千倉町、九倉町、和町の7町村が合併し、20日、県内35番目

南房総市が誕生



新市誕生を祝いテープカットする遠藤一郎市長職務執行者（左）と佐々木俊彦教育長

県内最多の7自治体合併

「一体感ある組織に」

開市式は市役所本庁舎（徳勝教育長がテープカット）となる旧富浦町役場玄関トとして新市誕生を祝った。約百八十人の幹部職員を前に、各支所となった旧富浦町長職務執行者の遠藤一郎庁舎でも、それぞれ開所式が行われた。市の組織は八館、三十二とを踏まえ、「和を大切に」三課、一室、六支所とした。住民に親切的な「一舎が置かれている」といふことをした。開市の人口は二〇〇五

市長、市議選は、投票は午前七時から午後八時まで、八東小体育館など市内五十三の投票所で行われ、富浦体育館で午後十時から即日開票される。合併に伴う南房総市長選、市議選（定数二）は三月二十二日現在、有権者数は三万九千三百三十三人。

四七千七百四十七人と県内五年度一般社団法人等五十六自治体中三十三番目、面積は三〇・二二平方キロメートルの広さ。町村等の合併前日となる今年三月十九日時点での暫定予算を専決処分執行段階と、南房総市発足に伴い新たに必要となる経費などを追加する形十四億九千万円の二〇〇